

# 第3学年国語科学習指導案

平成18年9月12日(火)

4校時 3年B組教室

指導者 O・J

1, 単元名 敬語

2, 指導計画(4時間扱い 本時は3時間目)

ねらい	主な学習活動	主な評価の観点	時間
<p>敬語の必要性をとらえることができるようにする。</p> <p>敬語の種類と特徴を理解し、説明できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>敬語の問題を解き、解答と共に新聞の記事を見ることによって、敬語の現状を知る。</li> <li>敬語の種類や特徴を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>敬語を使う目的と、「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」について特徴をとらえている。</li> </ul> <p>【観点1・4・5】 (ミニテスト、挙手、発言内容、観察、机間指導)</p>	1
<p>敬語について再確認をすると共に、敬語の日常での使い方をとらえることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>敬語のビデオを視聴し、「敬語のまとめ」と「日常での使い方」を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の言語生活の誤った敬語の使い方の例などを通して、自らの公的会話のあり方を振り返り、意識しようとしている。</li> </ul> <p>【観点1・4・5】 (挙手、発言内容、観察)</p>	1
<p>状況や場面に応じた敬語の適切な使い方を身につけることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな状況や場面に応じて敬語を適切に使い、寸劇にする。</li> <li>発表を聞き合い、誤った表現を指摘したり、感想を述べ合ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで担当した常体のシナリオを、適切な敬語を用いたものになおしている。</li> </ul> <p>【観点4・5】 (観察、期間指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>寸劇の発表を見て、誤った表現を指摘したり、感想を述べ合ったりしている。</li> </ul> <p>【観点2・4・5】 (観察、挙手、発言内容、自己評価、相互評価)</p>	2 本時

### 3, 指導にあたって

本単元は、敬語についての理解を深め、生活の中で適切に使えるようにすることが目標となっている。敬語については、小学校5, 6年生でよく使われるものに限って学習してきたので、ここで総括的に取り上げることとなる。敬語は、小学校で学習した内容や、日常生活で経験的、継続的に学習したことを合わせると、かなりの理解ができていると考えられる。そこで、これらの知識を整理して体系付け、敬語のきまりとして改めて理解させていきたい。また、「文法面」だけでなく、これから生徒が社会に出て生きていく上で「社会面」も重要になってくるため、二面において充分学習する必要がある。文法的な面からの表現形式と、人間関係や状況を考慮しての適切な表現形式、その上での敬語の使い方を実際の指導に結びつけていくことになる。敬語力の低下が問題となっている今、生徒に自分の言語生活を振り返らせ、敬語(相手や場面を意識した日本語の多様性)を含む日本語、さらには人間と言語に関わりについて考えさせることは、社会に出る準備段階の現在において大変価値のある教材だと思われる。

そこで、生徒の現状とも考え合わせ、次の点に留意して指導を行っていく。

敬語の文法上の知識を定着させる。

実際に敬語を使う場面に直面したときには、やはり、確実な知識に基づく判断が要求されるはずである。よって、種類や特徴をとらえるだけでなく、場面や状況に応じた人間関係も含め、敬語の使い方を理論的に説明できる力までつけることが必要である と考える。《基礎・基本の定着》

敬語を日常生活の中で適切に使える力をつける。

敬語の果たす役割と意義を考えさせ、さらに今までの敬語の使い方を振り返らせるために、日常の敬語を使う様々な状況の場面をいくつか設定し、会話表現の短いシナリオを与える。そして状況に応じて適切な表現に改めたシナリオの発表会を行う。それによって学習した敬語をより日常生活に近づけることをねらいたい。

《日常生活での実践》

敬語を含めた日本語と人間関係の関わりについて深く考えさせる。

寸劇で、敬語を使う側だけでなく使われる側の演技も経験することで、相手に対する印象や場の雰囲気、敬語の使い方が変わっていくことを体験させる。そこから、敬語の意義と日本語の表現を豊かにしていること、日本語が相手や場面を意識した多様なデリケートな言語であることなどを考えさせることにつなげていきたい。

《日本語の豊かさについての気づき》

き》

本時では、4～5人の小グループで協力しながら、常体の短いシナリオを、状況に応じた(敬語を適切に用いた)表現に直す。ある程度自分の考えを持って話し合いに参加し、リーダーを中心に話し合いながら、グループの統一したシナリオを作成する。ここで、個から少人数への広がりとし、練り合いをさせたい。また、シナリオが決定したら、配役を決め、簡単に寸劇の練習を行うことで、和やかな人間関係の中で敬語の習得をねらっていく。その後、いくつかのグループの発表を行い、その発表を見て意見交換する。その場面を大きな練り合いや共同の学びの場として設定したい。教師は、活動の停滞している個・グループに気を配りながら期間指導や支援を行い、発表の場では進行役となる。

#### 4.本時の流れ

